

# 皮膚・頭頸部疾患

科目責任者 井 川 健  
学年 6 学年

## I. 前 文

これから国家試験を向かえる6学年に対して皮膚，耳鼻咽喉，歯，口腔，眼の領域の疾患を今一度，重要なポイントに焦点を当て講義を行う。講義は4学年までの基本的事項を中心とした基礎編から一歩進んだ上級編となるが，この領域に登場する臓器は触覚・視覚・聴覚・嗅覚・味覚の五感に関わり，その他の平衡感覚や外界からの保護，呼吸，咀嚼などの機能を持ち，深く学べば大変興味深い分野である。

## II. 担当教員

教 授 川 又 均 口腔外科学  
教 授 河 越 龍 方 眼科学  
特任教授 平 林 秀 樹 耳鼻咽喉・頭頸部外科学  
非常勤講師 嶋 岡 弥 生 永田皮膚科医院  
塚 田 鏡 寿 新小山市民病院 皮膚科

## III. 学修の到達目標

・各科の講義到達目標に準じる。

## IV. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（15分程度）：各科の講義学習内容に準じ事前に学習内容を把握し理解を深めておくために，事前学習として講義資料（または予習用資料）に目を通し必ず予習すること。

小テストがアップされている場合は，講義前までに済ませておくこと。

事後学習（30分程度）：各科の学習内容に対し，さらに理解を深めておく。

## V. 授業計画及び方法 \*（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）  
2：ディスカッション，ディベート 3：グループワーク 4：実習，フィールドワーク 5：プレゼンテーション  
6：その他 空欄：該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	7	28	火	7	国試対策Ⅱ（悪性腫瘍）	塚 田 鏡 寿	1
2		29	水	1	口腔疾患・口腔ケア	川 又 均	1
3		29	水	2	国試対策Ⅰ（感染症）	嶋 岡 弥 生	1
4		29	水	3	国試対策（眼科）	河 越 龍 方	1
5		29	水	4	国試対策（耳鼻咽喉・頭頸部外科）	平 林 秀 樹	1

## VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績評価する。

試験は60点以上。講義への出席は4/5以上。

Ⅶ. 医師国家試験出題基準（令和6年版）

- ・医学総論Ⅲ 2皮膚・頭頸部・感覚器・発声器
- ・医学各論Ⅲ 皮膚・頭頸部疾患

Ⅷ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

Ⅸ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

随時質問を受け付ける。ただし、事前に秘書を通じてアポイントをとること。